

# 技をつなぐ

16

## 風間

(上)

日本の中でも数少ないラタン専門の家具メーカー、風間(横浜市中区根岸町、中村友恵社長)は創業93年、手作りによる籐家具の技術を代々受け継ぐとともに、時代の流れをつかんだ斬新なデザインの籐家具を作り続けている。単なるライフスタイルの提案にとどまらず、文化としての籐家具を今に伝える事業も展開している。そのデザインを担当する商品部長長の才津俊朗さん(54)、風間の技を受け継ぐ丸尾良さん(72)に聞いた。

### ■風間の「こだわり」

ラタンの椅子の接合部の多



中村社長

くは、丈夫な皮籐(セガ材)が固く巻かれている。風間のショールームで、それを取った裸の状態の椅子の接合部を見せてもらったことがある。フレームに使われているアーチ状のラタンの端面は、きれいに曲面に削られ、もう片方の垂直の脚部の曲面に隙間なく美しくつながっていた。風



技を受け継ぐ丸尾さん

### ■若年層にも広がる

「モダンの傾向を把握しながら、流行の色やテイストを入れてデザインしています」と才津

間のこだわりは、目に触れないところにも行き届いている。籐家具は昔、夏物と捉えられていたことがあったが、風間は季節にとらわれない、どんなインテリアスペースにも対応する商品の開発に力を注いだ。競合は籐家具というよりも、ソファなどを作るメーカーという。デザインや座り心地に磨きをかけ、自然で軽やかなテイストを表現できるラタンならではのライフスタイルを提案している。

「マンションの部屋にサイズを合わせたコンパクトなダイニング、リビングのアイテムも増えている。昔は比較的、高い年齢層にファンが多かった籐家具。いまは30〜40代の層を中心に若い層にも広がっている。」

2012年の新作発表では、主力のベンチュラシリーズの機能性を高めつつ、若い層を意識したウィックカータイプ(丸芯編み)のソファやチェアをリリース、煮染めで着

色して7色のカラーに対応したネットシリーズを発表した。今年はベンチュラのラインアップをさらに充実するなど数多くの新作アイテムを追加、座り心地も風間ならではのこだわりがある。

### ■芸術的な完璧さ

風間は1921(大正10)

年、中村社長の祖父にあたる伊助さんが横浜市中央区に創業した。当時は元町に工場があり、山手の居留区に住む外国人や市内の有名家具店から多くの注文が舞い込んだ。

「彼の作ったものは芸術的なほど美しく完璧だった」。中村社長は、同社の創

業90周年にちなんだ家具新聞への寄稿で、当時の伊助さんを知る人の話を記している。その創業者の精神が今の風間の基礎にある。伊助さんから伝承された技術を受け継いだ丸尾さんは、匠(たくみ)の称号を持つ熟練の職人として同社製品の検品・修理を行っている。(つづく)

## 文化としての籐家具



数多くのアイテムが並んだ今年の新作籐家具発表会